



活動計画	活動計画による実施状況	所見		
<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員による相互授業参観週間を年2回(6月・11月)実施し、評価に基づいた授業改善を行う。</li> <li>・基礎学力の定着や学習意欲の喚起を目的とした課題テストを実施する。</li> <li>・各学期末成績において欠点科目等がある生徒は、三者面談を行い、学習意欲を喚起する。</li> </ul>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互授業参観週間を年2回(6月・11月)実施し、教員の授業力向上に努めた。</li> <li>・課題テストは長期休業明けに年3回実施し、長期休業中の学習習慣の確立をはかった。</li> <li>・各担任・学年主任による三者面談を丁寧に行い、成績不振者に対して家庭の協力を仰ぐとともに課題・学習の機会を与え、再考査を実施するなど学力向上につなげた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用等も進み、生徒や保護者の授業満足度は前年度に比べ向上したが、生徒の自主学习に関しては、課題が残っており、学習の習慣づけの工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用の推進や相互授業参観による授業改善が進んだことは評価できるが、生徒自身の自主的学習を深めるための支援が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用を深化させるため、授業支援ソフトやAI教材の活用をさらに広げる必要があり、調べ学習・発表活動の質を向上させるためにICT活用を推進する。</li> <li>・ICTの利点だけでなく、情報モラルやリスクへの理解も深める。安全なICT利用を実現するための教育を体系化して実施する。</li> </ul>
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業でICTを積極的に活用し、生徒の興味・関心を高めるとともに、多様な学びの機会を提供する。</li> <li>・専門領域の外部講師の継続招聘により、最新の情報や技術を習得させ、資格取得や技術向上につなげる。</li> <li>・学習内容について理解したことや自分の考えを文章にまとめさせ、話し合いや発表の機会を増やすことで深い学びにつなげる。</li> <li>・定期考査や検定等に向け、計画的に家庭学習に取り組む習慣をつけさせる。</li> </ul>	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI教材の利活用について、目的や注意すべき点について共通理解するとともに、授業サポートソフト用について、職員研修会を実施した。</li> </ul> <p><b>【商業科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門領域の外部講師の継続招聘により、最新の情報や技術の習得につながる魅力的な講座を開くことができた。</li> <li>・プレゼンテーションアプリを活用し、課題解決に向けた報告を行った。</li> </ul> <p><b>【食物科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全調協からの依頼で、食育推進全国大会におけるZ-1グランプリの雑煮作りを3年生が行った。その他、四国電力主催スチコン活用術の研修や外部講師による「ジビエ」や「食藍」、「嚙下の仕組み」に関する講習の機会があり、生徒の知識技術の向上に役立った。</li> <li>・ICTを活用し、夏のインターンシップの報告会や、ミニカフェの準備等も行った。タブレットを活用する機会も増え、深い学びにつながっている。</li> <li>・各種料理コンテストへの応募の機会も多数あり、積極的に取り組んでいた。</li> </ul> <p><b>【生活文化科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色彩検定の学習およびファッションショー衣装制作に向けて、ICTを活用し情報収集を行った。得られた知識や資料を基に、配色やデザインの工夫を進め、制作の質の向上につなげることができた。</li> </ul> <p><b>【福祉科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用により、校外介護実習の学びの報告会において、プレゼンテーションを行ったり、共同学習を行うなど、主体的な学びにつなげることができた。</li> </ul>	<p><b>【商業科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検定取得など、ICTを活用した授業は、興味・関心が高く、多様な学びを促すことができた。また、発表活動も増え、調べた内容を整理し伝える力が伸長した。</li> </ul> <p><b>【食物科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の様々な成果を単年で終わるのではなく、継続的な取組で、年々レベルが上がる教育活動につなげていきたい。</li> </ul> <p><b>【生活文化科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作の質の向上とともに、来年度も主体的に学びを深めていくことが期待される。</li> </ul> <p><b>【福祉科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習で得た経験を整理し、共有する活動を通して、主体的に学びを深める姿勢が育っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業科の全商検定の取得率が目標を大きく下回ったことに加え、CBT移行期対応を見据えた指導体制の強化を図る必要があるのではないか。</li> <li>・発表活動や調べ学習の充実については、学習意欲の向上に寄与していると思われる。</li> <li>・食物科では家庭科技術検定1級取得率97%、食育インストラクター・技術考査の合格率100%など高い成果が安定していることはすばらしい。</li> <li>・生活文化科は家庭科技術検定準1級100%を達成しており、ICTを活用した制作活動が学習の質向上に寄与しているのではないかと。</li> <li>・色彩検定については、現状の特別講義中心で、学習時間不足が課題であり、年間を通した計画的・継続的な指導体制を整える必要がある。</li> <li>・福祉科では校外模擬試験平均得点率76.6%と前年度から大幅に向上しており、介護実習の学びをICTで振り返る活動も高く評価できる。</li> <li>・家庭学習の定着や検定取得率向上は次年度に向けた改善課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業科の2・3級取得率低下はCBT移行期の影響が大きいと、CBTに対応した模擬問題・対策教材の導入が必要である。指導計画を前倒しし、十分な対策期間を確保する。</li> <li>・補習の充実を図り、苦手分野を克服できるよう支援する。また、習熟度に応じた指導グループを編成し、きめ細かな指導を進める。</li> <li>・生活文化科の色彩検定対策の再構築として、年間を通した計画的・継続的な指導体制を整える必要がある。また、模擬試験を適宜実施し、出題傾向への理解を深める。</li> <li>・食物科・福祉科など高い成果を挙げた学科については、単年度で終わらせないための仕組みづくりが必要である。そのため、外部講師・企業・団体との連携を継続し、学びの質を維持・向上させる。</li> <li>・実習報告会・プレゼンテーション等を継続することで、生徒の学びを深める。学年進行に応じて成果を積み上げる教育モデルを構築する。</li> </ul>

## 重点課題 II 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成

- 重点目標 1 基本的生活習慣の確立を図り、社会的自立に向けた能力を育成する。  
2 社会規範を正しく理解する教育を推進し、主体的な規範意識の醸成を図る。

自己評価		関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見			
評価指標	評価指標の達成度	総合評価（評定）			
1 ・全校で遅刻 0 日 (生徒) 年 3 日以上 ・服装・頭髪指導の実施 校則を守っている (生徒) 90%以上	1 ・全校で遅刻 0 日 1 日のみ ・服装・頭髪に関して、継続して指導を受けた者は全体の 4.7%であり、90%以上の者が校則を守ることができた。	B A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「遅刻 0 日」のみで評価することは疑問が残る。「遅刻総数」そのものも評価指標に含めるべきではないか。</li> <li>ルール・マナー遵守率が目標に届かなかったことは、次年度への課題である。</li> <li>ルール・マナー遵守率は評価項目が抽象的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「遅刻総数の削減」と「遅刻 0 日」の両方を評価指標し、生徒会与協力し啓発活動を進める。</li> <li>交通ルール、スマホ利用、挨拶、公共マナーなど、具体的項目ごとに遵守状況を可視化し、生徒の行動改善につなげる。</li> </ul>
2 ・「ルールやマナーの遵守」 (生徒) 80%以上 ・いじめ防止のための取組 (面談・アンケート) 問題解決率 100%	2 ・ルールやマナーの遵守率 77% ・アンケート実施後の事後面談および追跡調査による 問題解決率 100%	B A			
活動計画	活動計画による実施状況	所見			
1 ・規則正しい生活を送ることで、遅刻や欠席をしないよう指導するとともに、進路実現に向けた意識を高揚させる。  ・月初めに全校集会や服装・頭髪指導を通して、身だしなみや挨拶の重要性を生徒に理解させ、社会での実践力につなげる。	1 ・集会で「遅刻 0 の日」を周知したり、学期末には遅刻が少なかった HR を発表したりするなどした。  ・月に 1 回、学年団で服装・頭髪検査を実施し、違反があった生徒については改善に努めるよう指導をし、一定期間を設けた後、個別に再検査を実施し、継続的な指導を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 名のみの遅刻という日が多くあり、遅刻 0 人の日を 3 日間達成することはできなかったが、遅刻の総数を大幅に減少させることができたことは良かった点である。</li> <li>派手な格好をする生徒や極端な服装の乱れのある生徒は減少した。</li> <li>スマホ・携帯安全教室を年度のはやい時期に開催することができ、トラブルの減少に一定の効果があつた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻総数は大きく減少し、指導の効果が着実に表れている。</li> <li>校則遵守率は、より高い指標値を設定すべきではないか。</li> <li>防寒対策としてスカート下にジャージを着用する生徒が増加していることが気にかかる。</li> <li>地域住民から「挨拶ができ、服装の乱れも少ない」との声が寄せられており、学校全体として望ましい生活態度が浸透している点は高く評価できる。</li> <li>いじめ防止については、面談やアンケートの追跡により問題解決に向けた迅速な対応と支援体制が整っている点は安心できる。</li> <li>スマートフォンの適正利用について、年度初めの安全教室で一定の効果をあげたことは評価できるが学科ごとに運用が異なる現状に対し、校内のスマートフォン利用ルールの明確化・統一が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「遅刻防止デー」など、楽しく参加できる試行も検討する。</li> <li>防寒対策など時代に合わせた校則の見直しを検討する。</li> <li>校則遵守率は高いが、さらなる向上のために、違反の傾向や頻度に応じた細やかな指導を行う。</li> <li>身だしなみの意義を客観的に示し、生徒が納得して遵守できるよう指導方法を工夫する。</li> <li>学校全体として統一的なスマートフォン利用方針を再検討するとともに、学習場面での ICT・AI 活用と、リスク教育の両面を強化する。</li> <li>いじめ防止体制として、アンケート内容の改善や個別面談の充実を図るとともに、学校・家庭・関係機関の連携をさらに強化する。</li> <li>地域ボランティアや校外行事を通して社会性・公共心を育成する。地域との連携をさらに強化し、開かれた学校づくりを進める。</li> </ul>
2 ・ルールやマナーを守ることが自他を守ることにつながることを集会や HR などの機会を通じて理解させる。  ・関係機関と連携し、スマートフォンの適正利用や薬物乱用防止に関する講演会を実施する。  ・学校生活アンケートを年間に 2 回実施し、アンケートの結果について調査を行う。	2 ・毎月 1 日に全校集会を行い、学校生活におけるルールを指導し、理解を促した。学校評価におけるアンケートで、理解度を確認した。  ・スマホ・携帯電話安全教室を年度初めの 4 月に、飲酒・喫煙・薬物乱用等防止教室を 7 月に、ともに外部講師を招聘して実施した。今年度は交通安全教室も 10 月に実施した。  ・こころの健康アンケートを年間 2 回実施。結果を分析し、気になる回答があつた生徒に対しては、個別の面談等を行った。				

### 重点課題 Ⅲ 人権教育の推進と特別支援教育の充実

重点目標 1 自尊感情を高める教育を推進するとともに、人権尊重の精神の涵養に努める。

2 個別の生徒理解に努め、特別な支援を要する生徒への対応を充実する。

自己評価		関係者評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方針
評価指標と活動計画	評価	総合評価（評定）			
評価指標	評価指標の達成度				
1 ・「良好な人間関係の構築」 (生徒) 80%以上 ・「人権学習の満足度」 (生徒) 80%以上 ・「子どもの自尊感情の高揚」 (保護者) 70%以上	1 ・「良好な人間関係の構築」 82% ・「人権学習の満足度」 82% ・「子どもの自尊感情の高揚」 73%	A	B	・1の項目は、一定の成果が確認できた。 ・「人権学習の満足度」については、生徒の理解と関心の高まりがうかがえた。 ・学校環境の整備状況が良好であるが、保護者による同評価が相対的に低く、安心感の伝わり方に課題があるのではないか。	・保護者の「安全・安心」評価が相対的に低い要因を分析し、情報提供の頻度・内容・媒体を見直す。 ・保護者アンケートの設問を改善し、安心感の規定要因（安全・支援・情報）を分解して把握する。
2 ・「安全・安心な教育環境の整備」 (生徒) 80%以上 (保護者) 80%以上 ・「スクールカウンセラーだより」の発行 年4回以上	2 ・「安全・安心な教育環境の整備」 83% 70% ・「スクールカウンセラーだより」 年4回発行	A			
活動計画	活動計画による実施状況	所見			
1 ・人権教育課を中心に人権教育ホームルーム活動で学習する個別人権課題に基づいた資料の準備や作成をする。 ・松西人権週間の展示用ポスター、標語、書道作品を制作させる。 ・夏季休業中の人権学習課題として、人権啓発作品を募集する。	1 ・各学年とも年間5回の人権学習HR活動にむけ、年間計画に基づいた資料作成を行った。 ・芸術の授業において人権啓発作品を制作した。 ・「心に虹をかけた まほうの言葉」「人権作文」「人権ポスター」「人権書道」を募集した。 提出数 322点 提出率 67%	・各学年で共通理解のもと、実施した。 ・1学年の生徒が制作した。 ・制作をとおして、人権意識が高揚した。		・人権教育課主導で、HR人権学習に向けた資料準備が年間計画に沿って適切に行われている。 ・松西人権週間に向けたポスター・標語・書道等の制作が授業と連動して進められたこと、人権啓発作品制作を通じて、人権意識の高まりが見られたことはすばらしい。 ・スクールカウンセラー来校日の周知が行われ、相談活動の利用が生徒・保護者に浸透していることは評価できる。 ・特別支援教育研修会の実施および年間4回の特別支援委員会・ケース会議の継続により、支援体制が十分機能していると。 ・外国籍住民・学習者への人権教育の必要性が高まっており、今後を見据えて相互理解の教育的意義は高い。	・生徒の日常行動と人権学習を結び付け、学校生活での具体的行動目標（言葉かけ、配慮、参画）を明確化する。 ・作品提出やHR学習の到達状況を可視化し、学級・学年で共有して学び合いを促進する。 ・スクールカウンセラーの活動内容・実績を、保護者向けにも定期的にわかりやすく発信する。 ・特別支援の早期発見・早期支援を維持し、ケース会議の質と記録共有（校内連携）を高める。 ・校内・校外の相談先（学校、関係機関、SNS相談等）を生徒・保護者双方に再周知する。 ・外国籍・多文化背景の生徒を見据え、異文化理解・やさしい日本語・多文化共生に関する学習を計画化する。
2 ・特別支援教育研修会や教育相談ケース会議を実施する。 ・生徒・保護者にカウンセリング日を周知し、相談活動の充実を図る。	2 ・特別支援教育研修会を7月に開催した。また、今年度4回の特別支援委員会およびケース会議を実施することができた。 ・スクールカウンセラーの来校日を生徒に周知し、相談活動を促した	・スクールカウンセラーによる相談事業は生徒ら浸透しており、生徒・保護者ともに、よく利用していた。			

## 重点課題Ⅳ キャリア教育の推進と進路指導の充実

- 重点目標**
- 1 望ましい勤労観・職業観の育成と個々のライフプランの構築を図る。
  - 2 個々の能力や適性を的確に把握し、きめ細やかな進路指導に努める。
  - 3 地域の産業や文化の理解及び地域課題や貢献意識につながる進路指導を行う。

自己評価		関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
評価指標	評価指標の達成度	総合評価（評定）		
<b>1</b> ・外部講師招聘 年2回以上 ・「専門性の向上」(生徒) 80%以上 ・事業所見学(インターンシップ含む)の実施 全学科実施	<b>1</b> ・外部講師招聘 2回 (全学科における進路関係のもの) ・「専門性の向上」 96% ・全学科で実施	A	A	<b>B</b> ・生徒の専門性向上の実感が96%に達しており、外部講師・事業所見学等により、職業理解が深化している。 ・保護者への進路情報提供満足は66%で、昨年度74%から低下しており、要因分析と対策が必要である。 ・地域と連携した活動は年1回以上の実施を達成し、生徒・保護者ともに、地域への関心・貢献意欲が高まっている。
<b>2</b> ・進路ホームルーム活動 年3回以上 ・「自分の能力や適性の把握」(生徒) 80%以上 ・「多様な進路情報の提供」(生徒) 90%以上 (保護者) 90%以上	・進路のホームルーム活動 年3回実施 ・「自分の能力や適性の把握」 90% ・「進路情報の提供」 89% 66%	A	A	
<b>3</b> ・地域と連携した活動の実施 各学科 年1回以上 ・「地域への関心や貢献意欲の高揚」(生徒) 80%以上 (保護者) 70%以上	・各学科で実施(重要課題Ⅰ及びⅤを参照) 年1回以上 ・「地域への関心や貢献意欲」 80% 72%	A	A	
活動計画	活動計画による実施状況	所見		
<b>1</b> ・外部講師による授業を実施し、専門的知識・技術の習得につなげる。 ・事業所見学・オープンスクールへの参加を推奨し、生徒の進路選択の幅を広げる。	<b>1</b> ・それぞれ特性に応じた専門の講師を招聘した。 <b>【商業科】</b> 金融経済教育、キャリア教育プログラムなど <b>【食物科】</b> エシカル、食藍など <b>【生活文化科】</b> アパレル業界、パーソナルカラーなど、 <b>【福祉科】</b> 作業療法士、歯科衛生士、摂食・嚥下認定看護師など	・事業所への就職希望者71名に対し、見学者118名以上(延べ人数)の参加があり、生徒の意識の高さがうかがえる。 ・担任・本人からの聴き取りにより、希望票に沿った応募先を紹介・開拓できた。 ・各担当ごとに、責任を持って業務遂行に当たったため、スムーズに進路指導ができた。		・生徒の進路意識の高さがうかがえる。 ・「希望票に沿った応募先の紹介・開拓」については、具体事例の提示が望まれる。 ・「責任を持って業務遂行」という表現は抽象的であり、実務上の具体策や工夫の明示が必要である。 ・求人票の端末閲覧におけるID管理や家庭共有の運用上の課題が想定される。 ・応募先の多様化に伴い、これまで接点の薄かった会社・職種への開拓が進み、就職機会の拡大につながった。
<b>2</b> ・保護者対象の進路ガイダンスや面談等を実施する。 ・ホームルーム活動を通して、多様な進路選択の情報を提供する。 ・特別な支援を要する生徒に対し、担当教員や関係機関と連携して進路指導を進める。	・昨年度より個人端末からすべての求人票を見ることができるようになり、2年生についても3学期に登録できるよう手配した。 ・生徒の個別相談延べ回数 43回	・希望する応募先の多様化により、従来なかった会社や職種に対して、希望依頼をし、マッチングにつながることができた。		
<b>3</b> ・専門授業・ホームルーム活動等を通じて、地域産業の情報提供、地域貢献活動への参加啓発を行う。 ・企業訪問(連絡)の実施等を通して進路開拓を行う。 ・学年団での情報共有に努め、よりよい進路指導を行う。	・今年より、履歴書作成が手書き方式からパソコン入力・印刷に変更した。履歴書作成方法の変更により、進路課と3学年が連携して、効率よい指導を行った。 ・来校する採用担当者の方から、丁寧に聞き取りを行い、担任や関係の先生方に情報を共有した。			

**重点課題 V 特別活動の活性化と地域連携の充実**  
**重点目標 1 学校行事や部活動を通して、生徒が主体的に参画し、多様な他者と協働して取り組む資質・能力を育成する。**  
**2 公開講座や行事等を通して、地域に貢献できる活動を推進する。**  
**3 部活動及び各学科の特性を活かした活動により、自己実現のために必要な資質や態度を育成する。**

自己評価		関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定)		
1 ・生徒会を中心に企画立案した行事の開催 年3回以上 ・各部活動による行事協力・自主的奉仕活動の実施 年3回以上 ・「生徒会活動に対する満足度」(生徒) 85%以上 ・「部活動の充実度」(生徒) 80%以上 (保護者) 75%以上 ・「学校行事の満足度」(生徒) 85%以上 (保護者) 75%以上	1 ・生徒会中心の企画 年3回以上実施 ・各部活動による行事協力・自主的奉仕活動の実施 年3回以上実施 ・「生徒会活動満足度」 83% ・「部活動の充実度」 88% ・「学校行事の満足度」 92% 78%	A A B B A A	B	・生徒会活動の満足度を押し上げるため、学年横断のプロジェクトや委員会連携を強化する。 ・部活動は練習環境・時間割調整・部内ルールの見直しを進め、部員主体の改善提案を定例化する。 ・部活動の取組・成果を可視化し、保護者向けの説明・発信を増やして保護者満足度を高める。 ・特別活動の成果を入試広報・学校紹介に反映し、学校の魅力を継続的に発信する。
2 ・公開講座や地域対象行事の実施 年2回以上	2 ・公開講座 3回実施	A		
3 ・部活動加入率 65%以上	3 ・部活動加入率 71.0%	A		
活動計画	活動計画による実施状況	所見		
1 ・生徒会主催の各種行事の企画立案及び運営等について主体的に取り組ませる。 ・各部活動による通学路・中田駅付近の清掃活動や式典の会場設営等への自主的参加を促し、責任感や協働心を育む。	1 ・松西祭・校則改正に向けての話し合い等、積極的に企画立案及び運営等を行うことができた。 ・JRC部による月1度の中田駅の清掃活動や各部活動の協力の下、式典等の会場設営など積極的に活動し、責任感や協働心を育むことができた。	・生徒会が主体性を発揮し、企画・運営の質が高まった。清掃活動や式典準備の協力も継続し、責任感と協働性が確実に育っている。	・関係団体の依頼より、各学科の活動露出が増え、地域に不可欠な存在である。 ・小松島市主催のイベントへの参加協力等は、貢献度が高い。	・学科の専門性と結び付けた地域プロジェクト(販売・食育・ファッション・福祉ボランティア等)を継続・発展させる。 ・学校・地域・自治体の情報共有を早期化し、イベントの年間カレンダー化で参加準備を効率化する。 ・行事・特別活動の広報を強化し、活動の意義・生徒の学び・地域への効果をわかりやすく発信する。
2 ・地域における各種イベントへの参加等を通じて、地域の伝統や文化を継承させ、地域に根付いた連携活動につなげる。	2 【商業科】・雪花菜工房部などを中心に積極的に小松島市や小松島署など、地域イベントに参加し、地域の伝統や文化に積極的にふれ、地域に根付いた活動を行った。	・各学科が地域イベントに積極的に参加し、伝統・文化に触れながら学びの場を広げたことは、生徒の視野と地域貢献の意識を高めた。 ・本校主催のイベントでは、参加を促すための周知を徹底したため、沢山の来客が来店があった。宣伝効果の重要性を実感した。	・各部活動が中田駅清掃や式典会場設営に協力し、責任感と協働心を育んでおり、地域活動の場面でも生徒の地域住民への対応が良好である。 ・南海地震を見据え、形だけの訓練ではなくハザードマップに基づく具体的な避難計画が必要である。	・防災ハザードマップを基に避難経路・集合場所・役割分担を明確化し、実効性ある内容に再設計する。
【食物科】 ・食育推進全国大会(6月)、産フェスや減塩フェス(11月)、豪華客船おもてなし(9月)、その他、様々なイベントに参加した。また、本校主催「ミニカフェ+」は年3回(6月・11月×2回)を実施したり、地域の小学生対象に「こどもカフェ」(7月・11月)で一緒にお菓子や雑煮を作ったりした。 【生活文化科】 ・中学生対象のファッションラボを3回実施し、また、産フェスや商業施設での販売実習を通して、藍染め文化の継承と発信をした。 【福祉科】 ・福祉施設での夏祭りにボランティアとして、利用者の介助を行った。	3 ・各部とも、顧問・主将・マネージャーが中心となり、よく話し合いを行い、ルール・マナーの向上に努めた。	・各部活動の充実度アップに向けては今後考えていく必要がある。	・地域イベント参加が学科の特色を活かして活発に行われ、地域に根差した活動として存在感を高めている。	・取組の成果と課題を定量(満足度・参加率)と定性(感想・事例)で記録し、改善PDCAを運用する。
3 ・全部員による主体的で活発な活動を展開する。 ・キャプテン・部長を中心に部活内のルール・マナーの向上に取り組む。				

## 重点課題 VI 環境教育の推進と安全教育の徹底

- 重点目標**
- 1 校内外の環境美化に努めるとともに、環境学習を推進する。
  - 2 SDGs の実現に向けた取組を推進し、社会的実践力を育成する。
  - 3 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の徹底を図る。

自己評価		関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
評価指標	評価指標の達成度	総合評価（評定）		
1 ・「清掃活動への主体的取組」 (生徒) 70%以上 ・「環境美化に対する意識の定着」 (生徒) 80%以上	1 ・「清掃活動への主体的取組」 77% ・「環境美化に対する意識の定着」 79%	A B	B ・「環境美化に対する意識の定着」は、目標未達成であり、行動の継続性と意識の内面化に工夫が必要である。 ・SDGs の取組は概ね浸透しているが、80%未達で学びの「見える化」と「自分ごと化」の仕掛けが不足している。 ・年間計画に基づく訓練、講習、点検等、計画的実施は評価できる。	・環境・安全の両面で計画的取組を遂行するため、生徒の主体性と安全意識の向上を推し進める。 ・環境学習と日常行動の往還を強化し、SDGs 学習を具体的行動へ結び付ける。 ・安全教育の実効性を高めるため、場面別（地震・津波・火災・登下校）の行動基準を明確化する。
2 ・「SDGs 活動の取組」 (生徒) 80%以上	2 ・「SDGs 活動の取組」 78%	B		
3 ・避難訓練の実施 年2回以上 ・心肺蘇生法講演会の実施 年1回以上 ・危険箇所、施設、設備点検 (教職員) 年3回以上	3 ・避難訓練実施 (4月・地震) (12月・火災) 2回実施 ・心肺蘇生法講演会 1回実施 ・危険箇所、施設、設備点検 3回実施	A A A		
活動計画	活動計画による実施状況	所見		
1 ・学校周辺及び中田駅の清掃活動を実施。 ・節電・節水・ゴミ分別の呼びかけと環境美化委員による校内美化活動の実施。	1 ・JRC 部によるボランティア活動として毎月 1 回、中田駅構内及び周辺の清掃活動を実施した。(今年度 5 回) ・環境美化委員会を中心とした「とくしま GX スクール」の活動として、ゴミの分別、減量化、節電節水への取り組みを行っている。	・JRC 部だけではなく、全生徒に周知して行っているため、興味・関心のある生徒が多く参加してくれた。 ・ゴミの分別ができていないときが目立つようになると徹底を促すように働きかけている。	・JRC 部の定例清掃に全校周知が重なり、関心層の裾野が広がり、生徒の環境美化への実践が着実に広がっている。 ・訓練の形式化を避けるため、ハザードマップに基づく具体的避難経路・避難判断の明確化が必要である。	・JRC 部・環境美化委員のほか、全校生徒から参加募集を募り、参加機会の拡張に努め、継続性を担保する。 ・SDGs 活動を啓発し、ゴミの分別状況・電力量・水使用量などの指標で成果を可視化し、生徒に改善策を立案・実行・発表する探究サイクルを確立する。
2 ・ホームルーム活動や人権ホームルーム活動、各種の行事等により、SDGs 活動への啓発と生徒個々で実施できることへの意識付けを行う。	2 ・また、ホームルーム活動などを通してゴミの分別や減量化を行うよう働きかけている。	・避難訓練では毎年継続しているため、生徒の意識も高く、スムーズに舎外に移動できている。	・校内の縦方向避難（上階待機）の条件整理や、校外活動中の行動基準など状況別運用ルールの明確化が必要である。	・防災計画を毎年見直し、一時・二次避難先の選定根拠（耐震・収容・到達時間）を再検証する。
3 ・防災計画の見直しと教職員への周知徹底 ・心肺蘇生法講習会を実施し、知識や技能を習得させる。 ・防災訓練の実施及び避難経路、避難場所、危険箇所、防災備蓄品等の確認	3 ・年度当初に防災計画を見直し、管理責任者の確認をし、教職員への周知徹底を行った。 ・心肺蘇生法は、福祉科で 2 年で行っており、また、保健体育では保健の授業で行っている。 ・4 月の防災避難訓練は避難経路、避難場所を確認するとともに、危険箇所の確認も行った。防災備蓄品は適宜購入し、保管している。		・福祉科や保健体育での心肺蘇生講習は生徒の救命技能の裾野を広げ教育的価値が高い。 ・講習中心から対象学年の拡大や実技の深化、限定群への資格付与の検討を望む。	・心肺蘇生・AED・止血・搬送などの救命教育を充実させ、反復練習と振り返りを組み合わせ、非常時の行動信頼性を高める。 ・地域と連動した防災力の底上げを図る。

## 重点課題 VII 学校運営体制の充実

- 重点目標 1 教職員としての倫理観と使命感のもと業務を遂行し、信頼される学校づくりに努める。**  
**2 業務の効率化を図るとともに、個々のワークライフバランスを充実させる。**  
**3 教育活動の発信により、開かれた魅力ある学校づくりに努める。**

自己評価		関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
評価指標	評価指標の達成度	総合評価（評定）		
1 ・「協働的な職場環境づくりに努めた」（教職員）80%以上 ・「コンプライアンスを常時意識している」（教職員）100%	1 ・「教育目標を実現するために、組織的な取組みが各分掌、学年、教科で行われている」100% ・「常によりよい職場環境づくりに努めている」93% ・「常にコンプライアンス意識を持って勤務している」98%	A B B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100%達成され、校内の運営体制が機能している。</li> <li>・「職場環境づくり」「コンプライアンス意識」は高水準である。</li> <li>・時間外在校等時間が前年度比19%減となり、働き方改革が一定程度進展している。</li> <li>・HP更新やメディア露出が増え、保護者・生徒の「発信・魅力」が評価につながった。</li> </ul>
2 ・時間外在校等時間前年度比削減（教職員）70%以上 ・業務の効率化と積極的なICT活用（教職員）70%以上	2 ・時間外在校等時間が前年度比19%減 ・「業務の効率化や積極的なICT活用に努めている」95%	A A		
3 ・「ホームページやメール連絡等により適確な情報発信ができています」（保護者）70%以上 ・「専門高校としての意義や魅力を感じる」（生徒）70%以上 （保護者）70%以上	3 ・「緊急連絡メールやホームページを活用して的確な情報発信を行ってくれている」83% ・「専門的な学びに魅力や意義を感じる」86% 84%	A A A		
活動計画	活動計画の実施状況	所見		
1 ・管理職による教職員面談を年2回以上実施するとともに、各種行事や会議等を通して互いの理解を深める。 ・コンプライアンス研修をこまめに実施し、教職員としての倫理意識の維持向上に努める。	1 ・学校長による教職員面談は年2回（5月・1月）を実施した。また、各科・課の打合せを事前に行い、共通認識に深めた。 ・職員会議や職員朝礼等の機会を捉えてコンプライアンス研修を行い、教職員の綱紀保持や服務規律確保に向けた意識向上に努めた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科・課の連携と情報共有が進み、組織として一体的に取り組む体制が強化され業務の円滑化と成果の向上につながった。</li> <li>・日頃の報道事案等を踏まえて速やかな周知や研修を行うことで、綱紀保持と服務規律の徹底に結びつけることができた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長面談はキャリア形成・健康配慮・業務最適化の3観点で対話を深め、支援ニーズを早期把握する。</li> <li>・コンプライアンス研修を継続的に実施し、時事的な問題や報道事例を踏まえて速やかに教職員へ周知、服務規律に対する意識向上を図る。</li> <li>・発信・依頼の集約と頻度管理など、業務量のマネジメント課題として総量管理を進める。</li> <li>・緊急連絡・欠席連絡・通知配信など、テンプレート整備をし、統一的・継続性を見据えた運用を整える。</li> <li>・共有サーバーの命名規則・保存期限を標準化し、検索性を高める。</li> </ul>
2 ・学期末の職員会議は、紙媒体の資料配付はせず、PC閲覧による方法で実施し、業務改善、経費削減に努める。 ・欠席連絡については、従来の電話対応だけでなく、緊急連絡網(さくらメール)も併用して行うことにより、業務の負担の軽減する。	2 ・職員朝礼連絡や職員会議では、紙媒体による資料配付を行わず、PC閲覧による方法に転換した。さらに緊急連絡システムの導入により、電話による欠席連絡は大幅に減少した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙媒体からデータ閲覧・保存への移行が進み、教職員も新しい運用に順応しつつある。</li> </ul>		

活動計画	活動計画による実施状況	所見		
<ul style="list-style-type: none"> <li>職員共有サーバーの活用、掲示板による情報共有や Forms によるアンケート調査実施等、業務の効率化に繋げる取組を積極的に取り入れる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>集計作業が大幅に効率化され、短時間で正確な分析結果を得ることができたため、今後も活用を促していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共有サーバー・掲示板・Forms の活用で、集計の正確性とスピードが向上している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信の質と体制をさらに高めるために、広報活動の負担が特定の教職員に偏らないよう、組織的に広報体制を整備する。</li> </ul>
<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科、校務分掌、部活動等と連携し、積極的なホームページ更新、学校の魅力発信に努め、地域に開かれた学校づくりを推進する。</li> <li>地元関係機関との連携や学校運営協議会における学校評価を分析し、学校行事の公開や生徒募集、進路開拓等につなげる。</li> <li>生徒や保護者との信頼関係を図りながら、マスメディアを活用した広報等、幅広い視点からの情報発信に努める。</li> </ul>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科・課や部活動等が専門性や特性を生かして地域交流や体験活動に取り組み、その様子をホームページを通じて、随時発信したことで、学校の魅力向上につなげることができた。</li> <li>学校運営協議会では、教育活動や学校評価、食物科卒業作品展について報告し、委員の方々に共有することができた。また、履修等に関する質問や広報強化など、今後の魅力発信に生かせる意見をいただき、各科の取り組みと合わせて学校評価の改善点を整理することができた。</li> <li>子ども食堂や体験イベントなどの地域交流活動を充実させ、小中学生や地域住民とのつながりを強化することができた。また、コンテスト入賞やメディア出演などにより、学校全体の発信力を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習成果や活動の様子が効果的に発信され、地域からの評価向上に繋がった。</li> <li>実習や学校行事、部活動等で成果を挙げた一方、準備等に伴う時間外在校時間が増加し、縮減目標に届かなかった点が今後の課題として残った。</li> <li>特色ある学科でメディア取材の機会が多いことは PR 効果が大きい。一方、その裏にある準備や努力への理解を得る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある学科の成果発信は PR 効果が高い一方、準備に伴う教職員の負担にも配慮が必要。</li> <li>学校の活動をテレビ等で目にする機会が増えており、映像発信は理解促進に有効である。</li> <li>教員の負担継続に懸念があり、部活動での外部コーチ・地域協力の活用拡大を考えてはいかがか。</li> <li>学校開放と防犯の両立は課題であり、機器導入は予算制約と優先度の整理が必要である。</li> <li>業務量の偏在、行事期の負荷、外部人材の安定運用、教員研修支援、防犯体制の強化は、引き続きの改善領域だと課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の魅力発信を強化するため、メディア出演や地域との共同イベントを通じて学校の存在価値が高める。</li> <li>部活動においては、教職員の負担軽減と生徒のより良い活動環境を両立させるため、外部コーチの活用体制を積極的に整える努力をする。</li> <li>現状では外部指導者の勤務状況や人材確保の難しさから運用が安定しない場合もあり、地域・行政と連携して継続的な支援体制を整えていく。</li> <li>教員の専門研修は、費用補助・出張枠・研究員制度等の仕組みで制度化し、研修成果を教材・授業案・実習手順に還元し、校内共有会で横展開する。</li> <li>働きやすさと教育の質を両立させ、「信頼される学校運営」を継続的に強化する。</li> </ul>